

The Top Shelf

Gaidai Library News

第2号



特集 Literary Inspiration

小声で、「文学」

大袈裟でいかにもアナクロニズムに聞こえるので、「文学」の話はつい小声になってしまう。今の学生は笑うだろうか。日常に見えるものには興味がなく、見えないものばかりを「文学」に探し求めている、などと言うならば。小林秀雄は『Xへの手紙』の冒頭で次のように語る。

「この世の真実を^{かんせい}陥穽を構えて捕えようとする習慣が身につくこのかた、この世はいずれしみったれた歌しか歌わなかったはずだったが、その歌はいつもおれには見知らぬ甘い欲情を持ったもののように聞こえた。で、おれは後悔するのがいつも人よりおそかった。」

人生に利得をもたらすものや人を価値づけするものの現実的な重みを、老いた私は十分に承知している。「人はパンのみにて生きるにあらず」というが、「パンを得て生きることの尊さをこそ知れ」という人もあるだろう。それは正論に違いない。だから「文学」の話は小声でしょう。図書館にいらっしやい。そこにはいつも甘い声音で歌が流れている。

英語キャリア学部教授 村上明子

本との出会いは、時に人生を変えることがあります。外大生の皆さんに、感情を揺さぶられる本と出会い、文学に誘惑され、人生の示唆を得るような経験していただきたいという思いから、本号の特集題を「Literary Inspiration (文学の刺激)」としました。時間に比較的余裕のある学生の中に、心躍るような本との出会いがありますように！





貴重書庫から



Maurice Bloomfield, *A Vedic Concordance*. Harvard Oriental Series, Vol.10, 1906.

インドの碩学Bellikoth Ramachandra Sharma教授の旧蔵書(第2版1967)。Sharma教授の蔵書は教授逝去後2013年にご息女から本学に寄贈され、Sharma文庫として貴重書庫に保管されている。

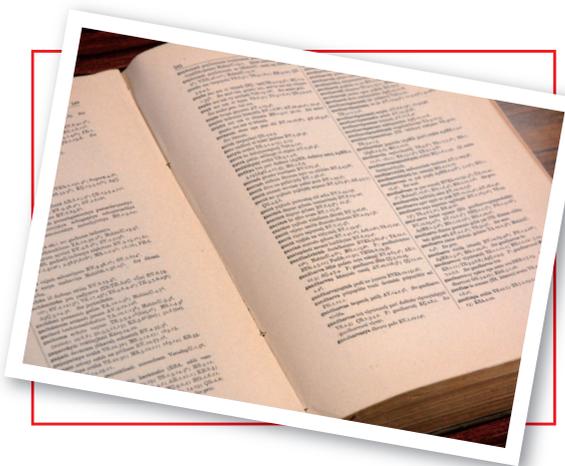
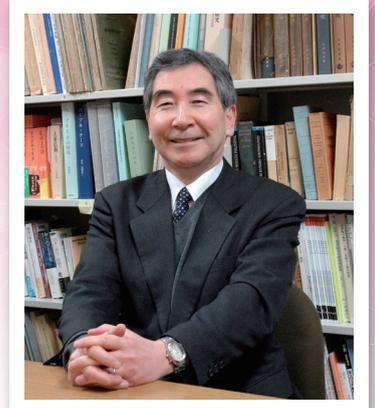
前1900年頃、中央アジアにいたインド・ヨーロッパ語族の一部がインド北西部のカイバル峠を越えてインドに進入し始めた。彼らアーリア人は護摩を焚いて天上の神々に供物をささげ、神々から恩寵として現世と来世の幸せを授かるという祭式宗教、バラモン教を信奉していた。この護摩の折に唱えられる詩が「ヴェーダ」と呼ばれる聖典であった。

遊牧の民であるアーリア人は書物を持ち歩かず、ヴェーダは暗唱された。正確な唱誦に対する彼らの熱意はすさまじく、一つの詩の語順を8通りに変えてすべて暗唱し(段階唱法)、調音点と調音法の指定によって音の崩れを防いだ(パーニニ文法)。その結果、3千年以上、ほぼ一字一句変わらずに伝承されてきたことが、本書をはじめとする近代文学学によって明かされた。

本書はシレジア(当時はオーストリア領)生まれのサンスクリット学者 Maurice Bloomfieldが編んだ諸ヴェーダの1行索引である。彼は15年に及ぶ研鑽の末1906年に、諸ヴェーダの7万5千行を各行の先頭文字順に並べたこの索引を完成した。以来、本書はインド思想の根幹をなすヴェーダの研究の必須のアイテムとなった。その後、新発見のテキスト分が増補され、さらに近年はこの索引をウェブ上で検索できるサイトも現れた。しかしBloomfieldの「1行索引」というアイデアは、電子化された今日も極めて有効なものとして踏襲されている。

文字を用いないインドの伝承と、その正確さを明かした文字文化の西洋古典文学とが、ここに一つとなって結晶しているのである。

外国語学部教授 中谷英明



【図書館1階カウンター横で展示中】



From the Desk of the Librarian



私は1998年7月～2001年7月の3年間、青年海外協力隊員(司書)として、マラウイ共和国に派遣されました。マラウイはアフリカ南東部にあり、タンザニア、モザンビーク、ザンビアに囲まれた内陸国です。主な観光資源としてマラウイ湖があります。到着後1か月の現地訓練を経て、公務員開発訓練校に配属されました。同校は、公務員及び半官半民の組織の職員と、将来政府機関で働くことを希望する学生等に各種研修・再教育を行っており、現在でもマラウイでの人材育成、人的資源開発の役割を担っている機関です。私はアシスタント・ライブラリアンとして現地スタッフの図書館業務に協力し、PCを含む視聴覚機器の運用・管理にも助言を行いました。帰国後、大学図書館を経て、2014年9月から本学図書館情報センターに勤務しています。

図書館学術情報センター目録担当 長瀬広和



【1998年7月 ザンビア・ルサカ空港にて】

「外大生の1冊」

アンケートへのご協力ありがとうございました。
外大生お薦めの本は、現在、図書館1階で企画展示しています。

図書館学術情報センターでは、2014年の12月に「外大生の1冊(外大生による外大生のためのおススメの1冊を教えてください)」というタイトルでアンケート調査を実施しました。英語キャリア学部、外国語学部、短期大学部の171人から回答があり、結果は以下のようになりました。

★注目作品ランキング

| 順位 | タイトル | 回答数 |
|----|---------------------------------|-----|
| 1 | 『The Last Lecture』Randy Pausch著 | 18 |
| 2 | 『The Giver』シリーズ Lois Lowry著 | 5 |
| 3 | 『Harry Potter』シリーズ J.K.Rowling著 | 4 |
| 3 | 『永遠の0(ゼロ)』百田尚樹著 | 4 |

★人気作家ランキング

| 順位 | 著者名 | 回答数 |
|----|------|-----|
| 1 | 東野圭吾 | 11 |
| 2 | 百田尚樹 | 6 |
| 3 | 湊かなえ | 4 |



注目作品ランキング1位は『The Last Lecture』。癌の転移で余命半年と宣告されたカーネギーメロン大学のLandy Pausch教授が2007年9月に行った最後の講義の記録です。この講義はインターネットで配信され、全米600万人の人々に生きる勇気と感動を与えました。現在もYouTubeで見ることができますので、ぜひご覧ください。

回答者からのコメントの一部をご紹介します。

どんな人が読んでも役立つ本だと思います。ランディが彼の最後の講義に込めた思い、彼が様々な経験を通して学んだことをぜひ読み取ってほしいです。たくさん話が含まれているので、最後まで楽しく読めると思います。 C

私が今もし余命宣告をされたら…。やりたいことは一体何だろうか。あと人生にどれだけの時間が残されているだろうかと考えさせられた1冊です。今この学生生活の1日1日を自分が思うままにやりたいようにのびのびと生きていこう。そう前向きに思えるようになりました。将来何がしたいのか迷っている方々にぜひ読んで頂きたいです。

ひーやん

レ・リヤンの企画展示

「レ・リヤン」は、イベント企画を中心に図書館を利用する皆さんをサポートする学生ボランティアグループです。昨年の秋学期には初の試みとして「『What is “和”?』for 留学生」というテーマの企画展示を行いました。たくさんの方に図書館を利用してほしい、本と人とのつながりを深めたいという目標を達成することは、簡単なことではありません。春学期からスタートする「レ・リヤン」の活動では、これまで以上に学生の皆さんの声に耳を傾け、利用する人の要望に応えるようなテーマの選択や企画展示をしていきたいです。アンケートをもとに2か月ごとに、企画展示の内容を変更します。ぜひ見に来てください。またFacebook (<https://m.facebook.com/goforitoshokan>) などのSNSも利用してコミュニケーションが広がることを願っています。

英語キャリア学部2年 朝倉千鶴



Footsteps, Words, and a Mysterious Island: Literary Inspiration and Shikoku

A journey of 1,000 miles begins with a single step.

This common English expression never seems to fall out of fashion. But for many, a journey of 1,000 miles or 1,000 km begins not with a footstep but with a single book, a single page, or even a single written word. Meaningful travel is often the source of great literature, and great literature often inspires meaningful travel. These two have poetically danced with each other through the centuries.

Pilgrimage is the act of going on spiritually significant journeys. It can be an expression of deep religious faith or a simply a search for one's true identity. It is estimated that one in three modern travelers is a pilgrim.

Throughout history and today, Japan has enjoyed a rich culture of both pilgrimage and pilgrimage literature. The 1,200 km journey to the 88 places of Shikoku, or Shikoku *henro*, has emerged

the country's most famous spiritual journey and is the subject of an exceptional literary boom during the Heisei era. Hundreds of seekers have written books about their experiences walking around the island. While their perspectives vary widely, nearly all make some statement such as "life is a journey" or "the journey is life."

Let us celebrate living and traveling: pick up a book, take up a pen, and put on your walking shoes.

外国語学部講師 John Shultz



国立国会図書館のデジタル化書籍が閲覧可能に!

国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料は、「国立国会図書館デジタルコレクション」のページから簡単に閲覧することができます。ただし、公開されていないものもあり、それらの資料は「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を導入している一部の公共図書館・大学図書館内でのみ、閲覧することができます。このたび、本学図書館で当サービスを開始する運びとなりました。このサービスを通じて、たとえば『家庭お伽話』（1908年）、菊池寛『結婚の条件』（1936年）など、現在では入手困難な資料約138万点が図書館1階の専用パソコンから閲覧できることとなります。書籍は時代を映し出す鏡。デジタル資料を通じて歴史探索してみてください。

〈編集後記〉

春真っ盛りの清々しい季節を迎えました。The Top Shelf 第2号では入学・進級の機会に、自分の生き方をより豊かにするきっかけを書籍との出会いから感じ取っていただきたいという願いを込めて特集を組みました。発行にあたり執筆・編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございます。次号は10月発行予定です。どうぞお楽しみに!

図書館学術情報センター運営委員会

*利用案内は図書館学術情報センターのホームページの開館カレンダー及び利用ガイドをご覧ください。

The Top Shelf
第2号 2015年4月発行

関西外国語大学図書館学術情報センター
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16番1号
TEL (072)805-2805(代)
<http://opac.kansaiidai.ac.jp/library/>